

健康管理ソフト開発

地域診療情報連携協議会 実験のモニター募集

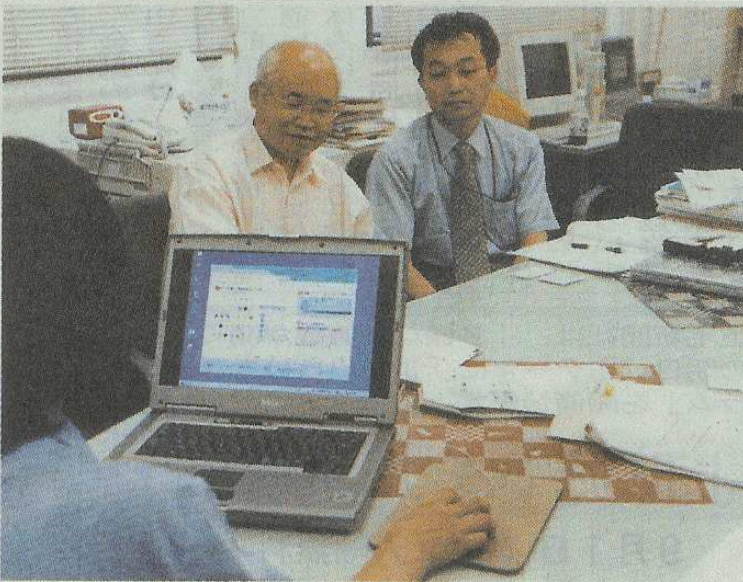
NPO法人「地域診療情報連携協議会」（前橋市、滝沢清美理事長）は群馬大医学部の酒巻哲夫教授、コンピュータソフト開発・販売会社「ビッドシステム」（赤堀町下触、谷径史社長）とともに、インターネットを介して自宅で健康管理ができる専用ソフトを開発した。同ソフトは三十一日、前橋・県民会館で開く「第一回市民シンポジウム」で公開。来年度の本格稼働に向け、実験に協力してくれるモニターを募集する。

このソフトは、体の気配替わりに体重や血圧などになる部分や生活習慣など百二十項目の「問診」を実施。その結果をもとに、日常生活で注意すべき点、一週間の運動メニューなどを提案する。日々ス化し、利用者全体と個

ソフト開発の意図について、酒巻教授は「電子紹介状は患者とかがりつけ医のためのシステムだが、患者も生活者であり、日々の健康管理に活用できるツールを考えた。いわば、地域医療における

人データの比較も可能となる。厚生労働省の指定を受け、昨年度から開発している「電子紹介状」システムとともに、来年度の本格的な稼働を目指している。

開発中の健康管理ソフトについて語り合っ酒巻教授（右から2人目）ら群馬大医学部附属病院



車の両輪」と語る。実験は九月末までを予定。同協議会は「身近な使い勝手のよいシステムにするには、多くの人の

意見が必要」と参加を呼び掛けている。シンポジウムは定員二百五十人。事前の参加申し込みは同協議会のホームページ

ムページ（<http://www.w.shin-ten.net/>）で受け付ける。問い合わせは同協議会（☎027・260・1777）へ。

平成16年7月27日 上毛新聞に掲載